

民間団体における取組事例

- 1 特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンク
「ライフスキルワークショップ」「仲間と居場所の発見ナビの構築」・・・1
- 2 いのち リスペクト。ホワイトリボンキャンペーン
「若者ピアサポーター養成事業」・・・3
- 3 西武鉄道株式会社「踏切自殺防止看板の設置」「青色照明の設置」・・・5
- 4 特定非営利活動法人全国自死遺族総合支援センター
「大切な人を亡くした子どもとその家族のつどい」・・・6

民間団体における取組事例

1 「ライフスキル・ワークショップ」「仲間と居場所の発見ナビの構築」

＜実施主体：特定非営利活動法人 自殺対策支援センター ライフリンク＞

(平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業)

○ライフスキル・ワークショップ

＜目的＞

- 1) これから実社会に出ていく若者（学生など）に、自己肯定感の保ち方、さらには様々な社会的な問題への対処方法を身につけてもらう。
- 2) ワークショップの様子を映像ソフトとして広くインターネット上で公開することで、地理的・時間的な制約、体調面の理由などからワークショップに参加できない方にも広く閲覧してもらう。

＜事業内容＞

- 1) 作家、労働問題や若年女性を支援するNPOと協働して、3回シリーズで開催し、実社会に出て様々なリスクに直面する学生に対し、困難に直面した時の実践的な対処法をワークショップ形式で伝え、若年層の自殺予防につなげる。
- 2) 「ライフスキル・ワークショップ」のページを作成し、ワークショップの様子を記録した映像と、配布資料等を無料で公開する。

○仲間と居場所の発見ナビの構築

＜目的＞

学校や地域、家庭から孤立し、自尊心が低下している若者の支援には「居場所」が重要となることから、若者にとって最も身近なツールであり命綱にもなっている携帯やスマホを使い、誰もが簡単に都内の「居場所」や「仲間」を見つけられることができるようにする。

＜事業内容＞

東京都内にあるサロン、趣味の活動、自助グループ等の「居場所」情報を収集する。利用者が検索しやすいように、活動の種類や活動場所、日時や料金の有無でも絞り込めるような検索システムを構築し、東京都民一人ひとりが自分にあった「居場所」を見つけやすいWEBサイトを立ち上げる。

東京都地域自殺対策緊急強化補助事業 “若者向けライフスキル・ワークショップ” について

厳しい雇用情勢、削減される社会保障、止まない虐待やいじめなど、若者たちを取り巻く社会状況は一段と厳しさを増しており、20 代の自殺率は深刻化の一途をたどっている。そこで、これから実社会に出る東京都内の若者たち（学生など）に、自己肯定感の保ち方やさまざまな生活上の問題への対処方法（ライフスキル）を身に付けてもらうためのワークショップを行う。就職活動やこれからの生き方、今後直面しうる雇用問題などにおけるトラブルへの対処法など、テーマ別に 3 回にわたって開催する。

第 1 回目 2013 年 9 月 21 日（土）10:00～13:00

講師 芥川賞作家 平野啓一郎さん

講師プロフィール

「個人主義」に対する新しい概念として、「分人主義」を提唱。これは、人は分けられない一つの存在であるという「個人主義」に対し、人は、家庭や学校、会社など、対する環境や人によって、さまざまな顔（＝分人）を持つという考え方。この概念により、いじめや成績不振、家族との不和などさまざまな悩みを持つ若者に対し、苦しんでいる「分人」は少し休んで、違う「分人」を生きる比率を高めようと、提案している。

▽第 1 回開催報告

平野啓一郎さんによる「ライフスキル・ワークショップ」が 9 月 21 日（土）に開催されました。会場には約 20 人の学生や新社会人が集まり、平野さんご本人とさまざまな意見を交わしながら、実践的な「分人」の使い方について学びました。

平野さんの提唱する「分人主義」は、「人は対人関係ごとに異なる自分を持つ」とする考え方です。今回のワークショップでは、自分の交友関係を振り返りつつ、「自分」という一つの円の中にさまざまな分人を書き落としながら、自分を構成している分人や、その分人を作った人との出会いについて考えました。中学から大学にかけて、「自分とは何か」という問いに悩み、「自分という人間が、故障中のような気がしていた」という平野さん。中学時代の自分を例に挙げ、「自分の部屋で大好きな三島由紀夫の本を読んでいる自分」「あまり楽しくなかった軟式テニス部で活動している時の自分」「ある先生に反発していた時の自分」など、さまざまな分人についてエピソードを交えながら語り、分人ごとに異なる人格・表情を持つことを解説してくれました。

後半は参加者の方も、それぞれの円の中に分人を書き出す作業を進めました。これまで意識していなかったさまざまな分人を発見したり、思いがけない他者からの影響に気づいたりすることができ、参加者の方からは、「周囲の同調圧力に対する術が分かった」という声や、「自分が苦しんでいた時に『分人』の考え方を知っていたらうまく対処できたと思う」といった声が寄せられました。



円の中に中学時代の自分の「分人の構成比率」を書き出しながら、分人主義について解説する平野さん

2 若者ピアサポーター養成事業

(平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業)

<目的>

性的マイノリティの若者が身近なところで本当に安心できる仲間（ピアサポーター）を増やすことで、相談機関に安心してつながることができる。

<実施主体>

いのち リスペクト。 ホワイトリボン キャンペーン

<事業内容>

- 1) 性的マイノリティの若者支援に関心のある若者を対象に、性的マイノリティの基礎知識の提供、当事者が直面しやすいテーマに関するワークショップを内容とする連続講座を実施する。性的マイノリティ支援に関心がある個人同士をつなげて、支援活動を続けられる関係づくりを行う。
- 2) 性的マイノリティの若年層のニーズを適切に把握し支援へとつなげていくため、若年層を対象とした生活課題調査を行い、講座のプログラムに反映させる。

<対象者>

性的マイノリティの若者支援に関心のある若者（10 代後半～25 歳程度）

LGBT若者ピアサポーター 養成講座のお知らせ



セクシュアルマイノリティのことをもっと知りたい！！
困っている友達の力になりたい!!
自分をもっと生きやすくなりたい!!!
そんな皆さんのための連続講座を2月に開催します。
2日間でみっちりタメになる勉強をしてみませんか？

◆日時 2014年2月22日(土)、23日(日) 9:00～17:30 を予定

◆場所 都内(近日中確定)

◆対象

- ・LGBT(レズビアン/ゲイ/バイセクシュアル/トランスジェンダーや性同一性障害)の若者とピア(対等な立場で一緒に考えられる人)になれる方
- ・原則として両日とも受講できる方
※年齢や属性、専門分野の資格の有無、セクシュアリティ等は問いません
(セクシュアルマイノリティ当事者でない方もご参加ください)

◆プログラム

現時点では、メンタルヘルス、カミングアウト、相互尊重のコミュニケーション、性感染症に関して参加型ワークショップ形式で開催する予定です。

詳細・当日のタイムラインetcは、決定次第ご連絡致します。

◆費用 無料(カンパ歓迎)

◆参加方法

事前申込制(30名)、定員に達し次第受付を終了します。

団体HP <http://ameblo.jp/respectwhiteribbon/>からメールフォームで申し込む(11月中旬～)か、メールでrespectwhiteribbon@yahoo.co.jpまでお問い合わせください。

主催 いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン

※平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業の助成を受けて開催します。

3 「踏切自殺防止看板の設置」「青色照明の設置」

(平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業)

<目的>

鉄道における自殺については、駅ホーム、踏切での発生が多いことから、踏切での自殺対策として「踏切自殺防止看板」、駅ホームでの自殺対策として「青色照明」をそれぞれ設置する。

<実施主体>

西武鉄道株式会社

<事業内容>

- 1) 都内の踏切に「いのちの電話」をデザインした踏切自殺防止看板を設置し、踏切からの公衆による自殺防止を図る。1 踏切に対し両側に 1 枚ずつ看板を設置する。
- 2) 主要な駅のホーム端部に「青色照明」を設置し、自殺防止を図る。

<設置予定箇所>

- ・ 踏切自殺防止看板 39 踏切
- ・ 青色照明 3 駅

(踏切自殺防止看板)



(青色照明)



「西武鉄道 安全・環境報告書 2013」より

4 大切な人を亡くした子どもとその家族のつどい

(平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業)

<目的>

- 1) 大切な人を亡くした子どもが自由で安心できる雰囲気の中で、気持ちを表現することができるようにする
- 2) 子どもだけでなくその保護者も気持ちを分かち合うことができるようにする

<実施主体>

特定非営利活動法人全国自死遺族総合支援センター

<事業内容>

- 1) 大切な人を亡くした子どものグループ活動。遊びや工作等を通じて感情を表現することができるようにする。
- 2) 保護者が気持ちを分かち合う場。必要に応じて関係機関につなぐ。

<対象者>

大切な人を亡くした子供（6～18歳）とその保護者

<開催場所>

聖路加国際病院小児総合医療センター外来

<実施日>

平成25年9月15日（日曜日）、10月14日（月・祝日）、11月24日（日）、12月15日（日）、平成26年1月12日（日）、2月11日（火・祝日）、3月21日（金・祝日） いずれも11時45分～15時00分